

## へき地・複式教育の新たなステージに向けて

宗谷プレ大会実行委員会委員長 井村 雅彦  
(宗谷複式教育研究連盟委員長)

全道各地より、多くのへき地・複式教育に携わる皆様をお迎えし、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会を、最北の宗谷で開催できますことに心より感謝申し上げますと共に、遠路はるばるご参加頂いた皆様に、心より歓迎と感謝を申し上げます。

宗谷管内での全道大会は、平成13年度に開催された「第50回全道へき地複式教育研究大会」から14年ぶりの開催であり、記録では昭和36年に稚内市で開催された第10回全道単級複式教育研究大会を含め3回目の大会となります。

第50回大会当時は、今よりも複式校の数が多く、資料によりますと、離島も含め宗谷管内10市町村全てで授業公開を実施し、16の分科会が公開されました。保護者も含め全道各地より2400名と、多くの参加者を迎えることができ、密度の濃い、活発な研究協議が実施されたとあります。

今回の「第64回全道へき地複式教育研究大会」は、小規模校の統廃合により管内8市町村、9分科会の開催となりますが、『最北の風薫る宗谷の海と大地に生き 未来を担う子らに豊かな心と確かな学びを！』を大会スローガンとして、各市町村研究会と連携しながら実行委員会を組織し、単式校・中学校とも関わりながら、宗谷管内あげて大会成功に向け取り組みを進め、「オール宗谷で学びの場をつくる大会」、「全道に宗谷の教育を発信する大会」、「子どもの現実から出発し子どもに返す大会」、「創意工夫による低コストの大会」、「ICTの活用で時間と空間の壁を越える大会」の五つの視点を設定し、『宗谷は一つ』を合い言葉に、管内一丸となり取り組みを進めてきました。

また、今年度より始まる道へき・複連第9次長期5か年研究推進計画の確かな歩みを更に前進させるために、各校の研究主題や研究方法を見直し、研究の方向性や視点を明確にしながらか進めています。

分科会の中では、ご参加頂く皆様の忌憚のないご助言やご示唆を頂き、次年度の本大会に向けての方向性を見いだしていきたいと考えていますので、宜しく願いいたします。

最後になりましたが、本プレ大会の開催に当たり、北海道へき地・複式教育研究連盟、北海道教育庁宗谷教育局、管内各市町村教育委員会、管内各市町村教育研究会の皆様、全道の教育関係者の皆様へ感謝とお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。